

野生動物への餌付けはやめましょう！！

野生動物（キツネ、ハト、スズメなど）は、自然環境の中で自分の力で餌を確保して生活しています。人間が野生動物に餌付けすることによって、様々な影響が及ぼされます。

●自分の力で餌を探ることができなくなる（採らなくなる）

人から餌をもらえらると思ひ、自力で餌を採りに行かなくなりまふ。また、餌付けによつて人に慣れてしまつた野生動物は人を恐れなくなり、農業被害や人的被害を引き起こす原因となる場合があります。その結果、被害防止のために駆除されたり、道路に飛び出して交通事故に遭つたりなどして、命を落とす野生動物を増やすことにもつなげります。

●病気などになってしまう

人の食べ物には、野生動物たちの普段の食生活では得られない脂質や食品添加物などが含まれているため、人が餌付けした食べ物を日常的に摂取することで野生動物が病気などにかかつてしまふ場合があります。また、渡り鳥などに餌付けをすると、群れの行動（移動ルートや時期など）に影響を与える可能性があります。

●エキノコックス症と疥癬（かいせん）※キタキツネの場合

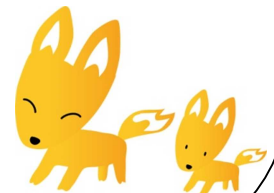
（1）エキノコックス症

キタキツネは、「エキノコックス症」という寄生虫を持っていることがあります。サナダ虫に近い仲間である多包条虫エキノコックスは、キツネやタヌキ、ペットでいえば犬や猫の糞に虫卵が含まれます。何らかの理由で飛散した虫卵が、経口感染により人の体内へ侵入し病巣を肝臓などに形成します（潜伏期間は10数年と長い）。餌付けは不用意にキツネとの距離を縮めてしまふため、エキノコックスの虫卵をもらつてしまふ可能性があります。

（2）疥癬（かいせん）

キタキツネにとって人が与える食べ物は、普段食べているものと違ひ、脂質や糖分、塩分等が多く含まれているため、長い間餌付けされてしまふと消化機能が低下し、体力や免疫力が衰え、病気にかかりやすくなつてしまひます。疥癬は、ヒゼンダニというダニの寄生によつて発症し、全身の毛が抜け落ちてしまひ、体温の維持が難しくなる皮膚病です。

人からの餌付けによつて、疥癬を発症したと思われけるキタキツネが様々な地域で目撃されています。病気にさせないためにも絶対に餌付けは行わないようにしまひまふ！！



野生動物の保護について

○負傷している野生動物を発見したとき

何らかの原因により負傷した野生動物を発見したときに、「かわいそう」という気持ちから保護してしまうケースがありますが、野生動物にとって人に触られることが大きなストレスとなり、死に至る場合もあります。野生動物は、他の生物を捕食・採食しながら生と死を繰り返すことで生態系を保っており、人が不必要に介入することで生態系を崩しかねません。「助けてあげたい」という気持ちはわかりますが、多くの場合は見守るか保護してしまったとしても自然の多い場所（雑木林や草原など）へそっと戻してください。

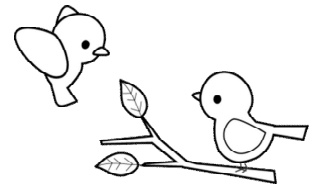
（希少動物については、保護する必要がある場合もあります。鳥獣の種類が不明な場合は、環境・生活安全係までお問い合わせください。）

○野鳥のヒナや幼獣を発見したとき

5月～8月にかけては鳥類の繁殖時期にあたり、野鳥のヒナが飛行訓練中であつたり、親鳥から餌をもらうのを待っていたりする時期です。また獣類についても授乳期であり、「巣立つために必要な時期」に、人間が「他の動物に狙われたら危ない」などといって保護はしないでください。

それらのヒナや幼獣の近くには親がいることが多く、はぐれたとしても鳴き声で見つけることができます。人間が保護し、成鳥・成獣まで飼育して自然へ還しても、自立して生きていける可能性は極めて低いです（また保護することにより、親が威嚇して人を襲う可能性があります）。

ヒナや幼獣が自然界で自立して生きていくためにもそっとしておいてあげてください。



○死んでいる鳥を発見したとき

複数の鳥が死んでいる場合は、何らかの病気（鳥インフルエンザなど）によるものかもしれませんので、環境・生活安全係までご連絡ください。

野生動物はペットではありません！

保護はせずにそっと見守りましょう



名寄市役所環境生活課環境・生活安全係

（名寄庁舎 1階 3番窓口）

電話 01654-3-2111（内線 3122）